科目名	地域・在宅看護方法論Ⅰ	対象学年・時期	1年・後期
講師	専任教員	単位数・時間数	1単位・15時間
講義概要	ディプロマポリシー4,5に基づく。日本における保健医療福祉の動向は、要介護人口の増加と認知症および精神科疾患の増加、医療的ケア児の増加に対応するために、地域包括ケアシステムが整備されている。地域に暮らす人々が健康を維持向上、または最期までその人らしく生活するためには、法・制度による資源を使うことや多職種・多機関との連携が望まれる。 本科目では、対象の「暮らすこと、生きること」を支えるためのシステムや施策、資源とその活用について学び、対象に合わせてマネジメントする力を身につける。		
講義形態	講義、演習(グループワーク)		
学習目標	１．地域・在宅療養者の動向が理解できる ２．地域・在宅看護における個人・家族を対象とした看護の特徴が理解できる ３．地域包括ケアシステムの意義が理解できる ４．訪問看護ステーションの役割が理解できる。 ５．地域・在宅看護におけるケアマネジメントの必要性が理解できる		
学習内容 (授業計画)	1回目：地域・在宅における対象と家族、取り巻く人の支援 1) 自宅で暮らす対象を取り巻く環境と互助 2) 自宅で暮らす対象の家族、対象を取り巻く人への支援 2回目：地域・在宅看護を支える法・制度と社会資源 3回目：地域包括ケアシステムにおける在宅看護 1)療養の場の移行に伴う看護・介護保険制度・訪問看護の制度 2)地域包括ケアシステムにおける多職種・多機関連携 4回目：在宅看護におけるケースマネジメント/ケアマネジメント（演習：グループワーク①) 5回目：在宅看護におけるケースマネジメント/ケアマネジメント（演習：グループワーク②) 6回目：在宅看護におけるケースマネジメント/ケアマネジメント　発表会 7回目：事例のまとめ 8回目：終講テスト		
使用テキスト	ナーシング・グラフィカ　地域療養を支えるケア　メディカ出版		
事前学習・ 事後学習 (学習を促進できる学修)	当該箇所をテキストで読み授業に臨んでください。 その他の事前学習は必要時授業中にお伝えします。		
評価基準と 評価方法	筆記試験		
備考	グループワークでは積極的に取り組み、自分の考えを相手に伝え、 相手の考えをよく聞きましょう。		